

鹿児島島の地質24 桜島大正噴火の記録を刻む記念碑 地質担当 鈴木敏之

大正3年1月12日の桜島大噴火の記録として、県内各地に爆発や移住等に関する記念碑があります。碑によって建立時期や設置者は異なりますが、碑文から先人たちのそれぞれの思いを読み取ることができます。

東桜島小学校にある「櫻島爆発記念碑」は、大正13年1月に当時の東桜島村によって建てられています。碑文には大噴火の前兆であった地震による火山斜面の崩壊や海岸の熱湯湧出、噴火口からの噴気などの様子が刻まれています。碑文の後半では「住民八理論二信頼せず」と記され、避難が遅れたことによって尊い人命が失われた悲劇を二度と繰り返さないように、今後、桜島の異変が認められるときは速やかに避難の用意をするようにと語りかけています。



爆発記念碑(東桜島小学校)

南大隅町大中尾公民館の敷地内には「移住記念碑」があります。この碑は大正15年3月に建てられており、表に大きく桜のマークが刻まれています。平成10年2月には先人の移住開拓の偉業をたたえ、校区内の三集落合同で修復された記録が、新たに追加された石碑に残っています。この他、種子島や宮崎県境の小林市大王にも移住や開拓の記録を記した移住記念碑が今も残されています。

これらの記念碑は、風化により文字の一部がはっきり読み取れなくなったものも見られます。公民館や学校神社内にあり、地域の方々によってしっかり見守られ、管理されているものもありますが、廃校になった校舎の片隅にコケやツタがからまり人目に触れずひっそりと建っているものもあります。



移住記念碑(南大隅町大中尾公民館)

鹿児島島の植物39

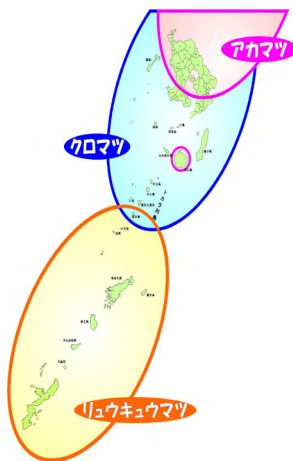
二葉マツは全部ある

植物担当 大屋 哲

正月になると門松をたてるところが多いですが、必ず入っているのが「マツ」です。祝い事などにも使われ、古い時代から歌に詠まれていました。マツは長命なので、この木になぞらえて長寿を願う気持ちがこめられていたそうです。

ところで、鹿児島県は日本に生える二葉マツの仲間がすべて見られる全国で唯一の場所です。この仲間は次の3種があります。

アカマツは、屋久島が南限で、県本土中央から北部の山の尾根や斜面、岩上地などに生えます。葉が柔らかく、その感じから女松(メマツ)とも呼ばれたりします。幹が赤っぽいのがアカマツの名前の由来です。



二葉マツの分布

来です。

クロマツは、トカラ列島の悪石島が南限と言われ、主に海岸近くに生えます。葉がかたく、さわるとごわごわした感じから男松(オマツ)とも呼ばれたりします。幹は黒っぽくなるためこの名前がつきました。



クロマツ

リュウキュウマツは、トカラ列島の悪石島が北限と言われ、海岸近くから山の斜面まで生えています。葉は柔らかく、幹は黒っぽいですが。奄美大島以南で二葉マツをみたらこの種になります。

3種すべて分布する鹿児島。みなさんが住んでいる地域では、門松にどのマツを使っているのでしょうか。

雑種については取り上げていません。